

地域連携 パス名	大腿骨近位部骨折地域連携パス	手術	急性期 病 院	公立南丹病院
患者氏名	様 年 月 日 生	手術日	リハビリ 病 院	入院日

下の条件が満たされれば、あとはリハビリテーションが主な治療となります。

- 感染徴候がない
 - レントゲン写真上問題がない
- 抜糸 ○未 ○済

経過	術後1~2日頃	術後3~4日頃	術後5~13日頃	術後14~20日頃	術後21~27日頃	術後28~41日頃	術後42~55日頃	術後56~70日頃
達成日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
目標	リハビリを開始します。 <input type="checkbox"/> 呼吸循環動態の安定 <input type="checkbox"/> ドレーンの抜去 <input type="checkbox"/> リハビリの必要性の説明	介助で車椅子に乗り移ることができる。 <input type="checkbox"/> 介助下車椅子移乗	平行棒内で立つことができる。 <input type="checkbox"/> つかまり立ちが可能 <input type="checkbox"/> 立位保持が可能	平行棒内で歩くことができる。 <input type="checkbox"/> 一人で往復歩行可能	歩行器やシルバーカーで歩くことができる。 <input type="checkbox"/> 一人で歩行器歩行可能 <input type="checkbox"/> 負荷制限がない	一本杖で院内を歩くことができる。 <input type="checkbox"/> 一本杖歩行安定	屋外・階段を歩くことができる。 <input type="checkbox"/> 屋外歩行ができる <input type="checkbox"/> 階段・段差が超えられる	退院です。
目標達成のため の条件								
検査 レントゲン	採血により、貧血の有無を確認します。 月 日頃		採血により、貧血、炎症の有無、栄養の状態を確認します。手術部位のレントゲンを撮影します。 月 日頃	採血により、貧血、炎症の有無、栄養の状態を確認します。手術部位のレントゲンを撮影します。 月 日頃				
リハビリ		車椅子の操作を学びます。トイレでの動作を学びます。	7日目頃より平行棒での歩行練習を開始します。	10日目頃より歩行器・松葉杖での歩行練習を開始します。 座位での動作の練習をします。		屋外の歩行、階段の昇降練習を開始します。 ものを拾う動作の練習をします。		
生活動作		ベッドサイドのトイレを使用します。	車椅子への移乗と移動ができます。介助下でトイレを使用します。		院内での歩行器歩行や更衣、靴下の着脱ができるようになります。	屋内での杖歩行ができるようになります。	屋外での杖歩行ができるようになります。	
清潔			監視下でシャワーを使います。		介助下に入浴をします。	一人で入浴ができます。		
社会資源				介護保険・身体障害者手帳について確認します。		リハビリの成果と最終見通しについて説明します。		
栄養	食事を開始します。					月 日頃		
説明と指導	手術の結果を説明します。リハビリの予定とリハビリ専門施設について説明します。	機能の評価を行い、リハビリの見通しを説明します。				家屋の調査や退院後の生活について、ご相談します。 月 日頃	カンファレンス予定 月 日	回復リハビリ終了時に、リハビリの経過を急性期施設に報告します。
コメント	※上の経過はおおよその目安です。手術前の生活状態により、リハビリの進行速度、最終の結果が大きく異なります。 ※リハビリテーションの目標が長期間停滞するときは、身体的な限界と考えられます。 ※回復期リハビリテーション終了後、一度元の病院を受診します。							

治療前の状態から予測されるゴールは、次の通りです。



代表的なパスの一例です